

きょうなんコミュニティ だより

がんばれお花壇

◆令和4年度 第5号(通巻147号)
◆発行日 令和5年3月15日
◆発行 境南コミュニティ協議会
◆編集 広報部
◆住所 武蔵野市境南町 3-22-9
◆電話 0422-32-8565
<http://www.kyonan-c.sakura.ne.jp>



この町がすき 人がすき
～笑顔が広がる 境南町～

＜ご挨拶＞

三寒四温を実感する気温差のある季節ですが、お変わりなくお過ごしのことと存じます。野山がだんだん明るい色に染まることが楽しみです。皆様におかれましては、卒業・入学と何かと忙しいのではないのでしょうか？コミュニティ協議会においても、まもなく新旧交代の時期を迎えようとしております。



(会長 高石好子)

目次

- 協議会からのお知らせ (1面)
- コミセン探検隊⑤ (1面)
- シリーズ コミセンを支える地域団体 (2面)
- シリーズ わがまちの昔⑳ (2面)
- サテライト (2面)

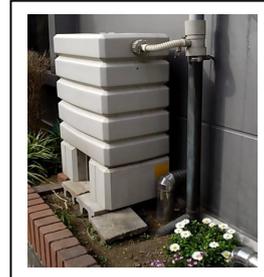
協議会からのお知らせ

- ◆いまさら聞けないスマホ教室
基本設定やLINEの使い方、登録方法など、ちょっとしたことから相談に。学生中心の講師陣が、皆さんをお待ちしています。
毎月第3日曜日①14:00～、②15:00～
場所：境南コミセン 会議室
- ◆親子企画
わらべうたの会
毎月第2・第4月曜日
くまのこひろば
毎月1回
(奇数月は第2・4金曜日)
親子ひろば
毎月1回



コミセン探検隊⑤

改装後の児童室は床暖房を導入しています。親子に優しい造りです。コミセンには授乳室も設置しています。



地域対策部が担当する花壇。季節ごとに楽しめる花々は雨水を利用して手入れしています。

紙パック回収箱。ピロティに設置されていますので何時でも利用できます。



広報紙配達員さん大募集！！
30分前後の区画でお願いしています。散歩をかねての程よい運動。いかがですか。

*次号「きょうなんコミュニティだより」148号は、6月頃発行予定です。

《シリーズ コミセンを支える地域団体》

「クリーンむさしのを推進する会」

市環境部の一画に事務局を置き、環境とごみ減量を主たる活動テーマに、創立から45年ほど経過している市民の活動団体です。境南コミセンとほぼ同時期の設立でもあります。現在の活動テーマは、①生ごみのたい肥化と元気野菜づくり②お茶わんのリユース③プラごみの減量—の3つが中心となっていますが、ここでは「お茶わん」と「生ごみたい肥化」に絞って述べたいと思います。

「お茶わん」は、コミセンのロビーに展示されている通り、リユース事業として行っていますが、以前はリユースだけでなくリサイクルもやりました。岐阜県の瀬戸物の集散地で給食用の食器の原料として受け入れられた時期もありましたが、その後、数量制限が入ることとなり、リユース事業だけで現在進めています。ここ数年は、市の桜まつりもコロナ禍のためWeb開催となっていますが、最後に行われた2019年のまつりでは、段ボール箱25箱のお茶わんが、一日でさばけた実績があります。コロナ禍ではこれは不可能なので、境南コミセン始め7拠点で行われている常設のリユースコーナーが、とても重要な場所となっています。コミセンのお茶わんコーナーは女性を中心となって維持管理をしていますが、人的には不足しております。お手伝い頂ける方をお待ちしています。

次に、「生ごみたい肥化と元気野菜作り」です。段ボールを使った生ごみたい肥化は家庭で長く行われていますが、生ごみの拠点回収は、①クリーンセンター生ごみ堆肥化ボックスと屋上の菜園②境南小ちびっこ農園生ごみたい肥場③ぐっどういる境南屋上の生ごみたい肥化と菜園づくり—の3か所では5~9年の実績があります。なかなかこれ以上の展開が図れなかったのですが、この1年ほどの間に、とらいふ武蔵野（関前1丁目の特養ホーム）、吉祥寺駅のキラリナ屋上、障害者施設わくらす、の3か所の拠点でスタートを切ることができました。いずれも、たい肥作りと野菜作りのセットで楽しむ現場です。お茶わん同様、お手伝い頂ける方を求めています。

サテライト

コミセン活動に参加されていない方にも手に取っていただけるよう、お知らせにとどまらない紙面づくりを心掛けた1年でした。今後もよろしくお願ひします。

シリーズわがまちの昔²³

今回は前号の野口由昌さんの紹介でプレイス近くのマンション2階にある居酒屋「結家（ゆいや）」の店長、片桐朋弘さんです。お店は武蔵境駅から徒歩1分、プレイスの南側の道沿いにあるマンションの2階にあります。福岡市の博多出身、もともと建築、内装工事等の仕事をしていましたが業務の拡大、東京のデパートに入居する専門店内装を請け負ったのを機会に武蔵境に住むことになりました。昼食で行きつけの店ができそこでの付き合いから飲食の仕事に興味を持ち始めました。

素朴な感じの落ち着いた、佇まいのある街並みなど緑が今より豊かな風情がとても印象的でした。慣れ親しんだ博多の街とは好対照かも知れませんが、ある店が空くという情報があり、この地で飲食の仕事にチャレンジと決心し、6年前に店をオープンしました。通り向かいに「栄見山 観音院」があります。承応二年（1653年）開山の盛岳栄見大和和尚により開創された徳川幕府公認の曹洞宗大本山永平寺の末葉の由緒あるお寺です。17世紀の中頃、松江藩主松平直政がここに屋敷を建て、そこに建立した観音堂が起源だと先輩にお聞きしました。通り添いを含めた桜は毎春ピンクのトンネルを作り秋には紅葉となります。そばには数本の銀杏の大木もあり、移り変わる武蔵野の自然にあふれた武蔵境の一角は東京暮らしに疲れた時に何かほっとさせる存在です。

デザイン性が全国的にも知られる文化発意の拠点でもある「武蔵野プレイス」の場所は、かつて農水省の食糧倉庫でした。今ではその面影はありません。店の料理は家庭料理が中心で冬場は博多風もつ鍋、豚ちりなども置いています。深夜になると仕事を終えた飲食店のご主人なども集まってくれます。

ある意味で地域を牽引し、振興の拠点となった武蔵境駅も立て替えられ周囲には新しいマンションもどんどん建てられ、新しい人々が流入し、人口も増えています。駅北口と南口の飲食店の仲間が協力し、昔からあった武蔵野の自然、素朴さなどの良さを残しながら、更に街の発展に貢献できるよう努力していきたい、と静かに語る片桐朋弘さんでした。